

令和8年3月6日

世田谷区立尾山台中学校  
校長  
永野 祥夫 様

学校関係者評価委員会  
委員長  
井上 健

## 令和7年度 学校関係者評価委員会報告書

はじめに

学校関係者評価は、世田谷区教育委員会が定めた大枠のもと、各学校でそれぞれ特色ある仕方で行われ、学校運営や教育活動の改善に役立てられている。

尾山台中学校では、令和5年度に新たな校長、副校長が着任し、学校関係者評価委員会の委員長も交代した。そこで、本校の学校関係者評価では、生徒、保護者、地域住民の皆さんにご協力をいただいた「学校関係者評価アンケート」の結果を丹念に読み解きながら、尾山台中の現状、よいところ、課題などを確認していくことを目指した。令和7年度も、そうした基本方針を踏襲しながら、「学校関係者評価アンケート」（量的データ）を整理するとともに、さまざまな形で日頃から学校に関わっている評価委員の意見（質的データ）を加味して、報告書を作成することとした。なお、アンケート結果の数値は、別途、本校のウェブサイトに掲載されているので、あわせてご覧いただきたい。

### 1 「学校関係者評価アンケート」結果の概要と考察

#### 1-1 生徒からみた尾山台中学校のよさと課題

「学校関係者評価アンケート（生徒）」の質問項目は、「1 学習指導」「2 生活指導」「3 学校行事」「4 キャリア教育」「5 先生」「6（学校生活）全般」「7 部活動」「8 学校独自校項目」の8つの領域から構成され、学校生活や学習に関連してかなり網羅的に質問をしている。さらに、本年度から総括的な質問として「学習について」が加えられた。

ここでは、生徒たちが強く肯定した項目の特徴を見ておくことにしたい。表1は、8領域34項目の質問の「とても」の数値が高い順に10項目をセレクトし、この3年間のデータを時系列で比較できようにしたものである（詳しくは、本校ウェブサイトに掲載した「令和7年度 学校関係者評価アンケート（生徒）」結果を参照いただきたい）。

表1「学校関係者評価アンケート（生徒）」：「とても」が多い10項目（時系列で比較）

	質問項目	令和7年度 n=249				令和6年度 n=258			令和5年度 n=257		
		とても	思う	とても +思う	増減	とても	思う	とても +思う	とても	思う	とても +思う
1	3-1 学校行事は楽しい	77.5	19.3	96.8	0.3	77.6	18.9	96.5	65.8	26.5	92.3
2	3-2 学校行事は達成感がある	77.1	19.7	96.8	-0.1	75.4	21.5	96.9	61.5	29.6	91.1
3	3-3 先生は、（学校行事で）生徒の意欲を大切にしている	73.9	19.7	93.6	-0.7	62.7	31.6	94.3	47.1	42.8	89.9
4	8-2 授業では、自分で考える場面がある（令和6年度 新設項目）	70.3	27.7	98.0	4.1	55.7	38.2	93.9			
5	6-1 学校生活は楽しい	69.1	26.9	96.0	2.5	63.2	30.3	93.5	53.3	36.6	89.9
6	7-1 部活動は楽しい	67.9	18.5	86.4	4.8	55.7	25.9	81.6	54.1	31.1	85.2
7	8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる	65.9	28.1	94.0	3.6	50.9	39.5	90.4	54.1	40.9	95.0
8	7-2 部活動は達成感がある	61.4	22.5	83.9	3.7	53.9	26.3	80.2	53.7	25.7	79.4
9	1-2 先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	60.6	34.5	95.1	1.6	53.1	40.4	93.5	47.1	45.1	92.2
10	2-2 私は学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。	60.6	34.9	95.5	0.8	46.9	47.4	94.3	33.9	57.6	91.5

\*項目に付された数字（例：3-1）は、学校関係者評価アンケートでの質問項目の番号である。

\*「増減」とは「とても+思う」の数値が「令和6年度調査」と比較して、何ポイント増減しているかを示している。

表1には、生徒たちの「尾山台中での学校生活への評価」が端的に示されている。

「とても」という回答に注目して見ていくと、もっとも多かったのは「3-1 学校行事は楽しい」77.5%、2番目は「3-2 学校行事は達成感がある」77.1%である。そうした高い満足度の背景には、「3-3 先生は、（学校行事で）生徒の意欲を大切にしている」（73.9%）ことがあることが窺われる。

尾山台中は部活動に力を入れているが、「7-1 部活動は楽しい」67.9%、「7-2 部活動は達成感がある」61.4%であった。学業についても、「8-2 授業では、自分で考える場面がある」70.3%、「8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる」65.9%とおおむね良好であり、集団生活のモラルについても「2-2 私は学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」60.6%と、身についている様子が示されている。

学校生活全般についてたずねた「6-1 学校生活は楽しい」では、「とても」は69.1%であるものの、「とても+思う」では96.0%になることは、一定の安心材料と言えよう。毎日の学校生活が充実したものとなるように心を砕いてくださっている教職員のみなさまに感謝を申し上げたい。

次の表2は、表1と同じ10項目について「学年による差」を見ようとしたものである。

まず、上位3項目「3-1 学校行事は楽しい」「3-2 学校行事は達成感がある」「3-3 先生は、(学校行事で)生徒の意欲を大切にしている」では、1年から2年、そして3年へと学年が上がるについて「とても」の割合が多くなっていることが特筆される。特に、「3-3 先生は、(学校行事で)生徒の意欲を大切にしている」について、3年生では9割の生徒が「とても」と回答していることは、先生方のご指導の賜物である。「6-1 学校生活は楽しい」「2-2 私は学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」についても、「とても」という回答は3年生が一番多く、3年間の中学校生活の成果を感じさせてくれる結果である。

他方で、「8-2 授業では、自分で考える場面がある」「8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる」「7-2 部活動は達成感がある」「1-2 先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」などでは、1年生、3年生に比較すると、2年生の「とても」の数値が低いことが読み取れる。一般的に中学2年生は学校生活に慣れ、卒業まで時間もあることから「中だるみ」しやすい学年と言われるが、この1年を乗り越えることで大きく成長できる時期でもある。こうした結果を学校としてどのように活かしていくか、気になるデータである。

表2「学校関係者評価アンケート(生徒)」:「とても」が多い10項目を学年で比較

	質問項目	1学年 n=91			2学年 n=63			3学年 n=95		
		とても	思う	とても+思う	とても	思う	とても+思う	とても	思う	とても+思う
1	3-1 学校行事は楽しい	72.5	23.1	95.6	76.2	19.0	95.2	83.2	15.8	99.0
2	3-2 学校行事は達成感がある	71.4	26.4	97.8	74.6	19.0	93.6	84.2	13.7	97.9
3	3-3 先生は、(学校行事で)生徒の意欲を大切にしている	61.5	27.5	89.0	66.7	23.8	90.5	90.5	9.5	100.0
4	8-2 授業では、自分で考える場面がある	69.2	28.6	97.8	60.3	36.5	96.8	77.9	22.1	100.0
5	6-1 学校生活は楽しい	62.6	29.7	92.3	63.5	31.7	95.2	78.9	21.1	100.0
6	7-1 部活動は楽しい	72.5	14.3	86.8	63.5	25.4	88.9	66.3	17.9	84.2
7	8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる	63.7	29.7	93.4	54.0	34.9	88.9	75.8	22.1	97.9
8	7-2 部活動は達成感がある	62.6	23.1	85.7	54.0	27.0	81.0	65.3	18.9	84.2
9	1-2 先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	59.3	33.0	92.3	50.8	42.9	93.7	68.4	30.5	98.9
10	2-2 私は学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。	53.8	39.6	93.4	54.0	41.3	95.3	71.6	26.3	97.9

## 1-2 保護者からみた尾山台中学校のよさと課題

次に、「学校関係者評価アンケート（保護者）」の結果をみてみよう。

保護者への質問は、「1 学習指導」「2 生活指導」「3 学校行事」「4 キャリア教育」「5 教職員」「6（学校）生活全般」「7 部活動」「8 学校からの情報提供」「9 学校運営」「10 家庭と学校の連携」「11 地域との連携」「12 学校の安全性」、そして、「13 学校独自項目」の13領域（47項目）からなる。1から7までは生徒用と同様の観点から尾山台中の教育活動への評価を求め、8、9では保護者の目に映った学校運営のあり方を、また、10では保護者自身の学校の教育活動への理解度や参加のあり方をたずねていることが特徴である（本校ウェブサイトに掲載した「令和7年度 学校関係者評価アンケート（保護者）」結果も参照のこと）。

表3に整理したように、学校の教育活動について最も肯定的な回答が多かったのは「3-1 学校行事は、子どもにとって楽しい」（「とても」60.3%、以下、同様）で、2番目は「3-2 学校行事は、子どもにとって達成感がある」（58.8%）であった。この2項目は、「思う」を加えると9割に達する。部活動に対する評価も高く、「7-2 部活動は、子どもにとって達成感がある」（45.6%）、「7-1 部活動は、子どもにとって楽しい」（44.1%）は、「思う」を加えると8割が肯定しており、表1で生徒のアンケート結果をみたが、学校行事や部活動への評価は親子で一致して「高評価」であることが確認できる。

「3-3 本校は、子どもの意欲を大切にしている」「6-1 本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」「6-2 本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある」でも3から4割は「とても」と回答しており、「とても+思う」では約8割となる。保護者から尾山台中学校の教育活動が高く評価されていることがわかるデータである。

表3「学校関係者評価アンケート（保護者）」：「とても」が多い8項目（時系列で比較）

	質問項目	令和7年度 n=136				令和6年度 n=111			令和5年度 n=121		
		とても	思う	とても+思う	増減	とても	思う	とても+思う	とても	思う	とても+思う
1	3-1 学校行事は、子どもにとって楽しい。	60.3	30.9	91.2	-4.3	59.5	36.0	95.5	53.0	43.4	96.4
2	3-2 学校行事は、子どもにとって達成感がある	58.8	31.6	90.4	-5.1	52.3	43.2	95.5	53.0	39.8	92.8
3	7-2 部活動は、子どもにとって達成感がある	45.6	39.0	84.6	6.3	41.4	36.9	78.3	48.2	30.1	78.3
4	7-1 部活動は、子どもにとって楽しい	44.1	44.1	88.2	8.1	36.0	44.1	80.1	42.2	37.3	79.5
5	3-3 本校は、学校行事において、子どもの意欲を大切にしている	39.0	43.4	82.4	5.0	32.4	45.0	77.4	32.5	51.8	84.3
6	6-1 本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。	36.0	52.2	88.2	-0.1	34.2	54.1	88.3	33.7	49.4	83.1
7	11-2 本校は、地域の活動などに協力的である。	29.4	52.9	82.3	-1.5	18.9	64.9	83.8	21.7	57.8	79.5
8	6-2 本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある。	28.7	46.3	75.0	-2.5	24.3	53.2	77.5	25.3	50.6	75.9

他方で、気になる点も存在する。表4は、「8 学校からの情報提供」「9 学校運営」「10 家庭と学校の連携」についてたずねた結果の一部をピックアップしたものである。

まず、「8 学校からの情報提供」についてであるが「8-1 本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」で「とても」という回答は21.3%、「8-2 本校はホームページやメールなどで、本校は、保護者に情報を提供している」では15.4%にとどまっている。

「思う」を加えると肯定する割合は7から8割に達するものの、令和6年、5年度の肯定率を下回ってしまっている。

次に「9 学校運営」についてであるが、「9-1 本校は、保護者に指導の重点を伝えている」について、「とても」という回答が1割程度であるのは少ないと言わざるを得ない。

「9-2 本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる」についても「とても」という回答は8.1%である。これは、「教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいない」と保護者が判定していると言うよりも、そもそも「本校の指導の重点」がわからないので、「教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいるかどうか」については評価できない状況にあると解釈すべきであろう。

そのことは、「10-3 私は、今年度の学校の指導の重点を理解している」に「とても」と自信を持って回答している保護者は、わずか4.4%であることに示されている。昨年度の数値からは若干、向上しているが、改善されたと喜べる水準ではない。そうした「情報提供の不足」は保護者の学校公開や各種の学校行事、PTA活動へ参加する気持ちを萎えさせてしまっているのかもしれない、心配である。「10-1 私は、学校公開にすすんで参加している」で「とても」は12.5%、「10-2 私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」では15.4%にとどまり、昨年度よりもさらに減少している。

表4「学校関係者評価アンケート（保護者）」：気になるデータ（時系列で比較）

質問項目	令和7年度 n=136				令和6年度 n=111			令和5年度 n=121		
	とても	思う	とても +思う	増減	とても	思う	とても +思う	とても	思う	とても +思う
8-1 本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している	21.3	63.2	84.5	-1.1	23.4	62.2	85.6	24.1	61.4	85.5
8-2 本校はホームページやメールなどで、本校は、保護者に情報を提供している	15.4	57.4	72.8	-7.1	18.9	61.3	80.2	15.7	57.8	73.5
9-1 本校は、保護者に指導の重点を伝えている	11.0	49.3	60.3	-4.6	9.9	55.0	64.9	12.0	56.6	68.6
9-2 本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる	8.1	56.6	64.7	-1.1	12.6	53.2	65.8	18.1	53.0	71.1
10-1 私は、学校公開にすすんで参加している	12.5	41.9	54.4	-9.6	13.5	50.5	64.0	16.9	32.5	49.4
10-2 私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している	15.4	43.4	58.8	-3.4	11.7	50.5	62.2	15.7	41.0	56.7
10-3 私は、今年度の学校の指導の重点を理解している	4.4	42.6	47.0	-0.7	2.7	45.0	47.7	6.0	48.2	54.2

以上のことから、来年度に向けた改善策として「学校の指導の重点」の「説明のあり方」について早急に点検し、実行することを強く求めたい。昨年度の関係者委員会の報告書でも指摘したことであるが、学校からの情報提供が不十分であれば、保護者が学校の教育活動に理解を深め、学校行事やPTA活動等への参加していくことは期待し難くないのではないか。

### 1-3 地域住民からみた尾山台中学校のよさと課題

最後に、「学校関係者評価アンケート（地域）」についてみていこう。

評価アンケートは「1 生活指導」「2 学校行事」「3 学校からの情報提供」「4 学校運営」「5 地域との連携」「6 学校の安全性」「7 学校独自校項目」の7領域から構成され、項目数は18である（くわしくは、本校のウェブサイトに掲載された「令和7年度 学校関係者評価アンケート（地域）」結果を参照のこと）。その結果から、「3 学校からの情報提供」「4 学校運営」「5 地域との連携」をピックアップし、経年比較をできるように整理したのが表5である。

表5 「学校関係者評価アンケート（地域住民）」：気になるデータ（時系列で比較）

質問項目	令和7年度 n=31				令和6年度 n=54			令和5年度 n=16		
	とても	思う	とても +思う	増減	とても	思う	とても +思う	とても	思う	とても +思う
3-1 学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる	48.4	48.4	96.8	-1.0	36.4	61.4	97.8	31.3	68.8	100.0
3-2 「学び舎」の活動について、情報が提供されている	22.6	51.6	74.2	1.5	15.9	56.8	72.7	25.0	68.8	93.8
4-1 学校の重点目標が明確である	19.4	54.8	74.2	-14.5	20.5	68.2	88.7	25.0	62.5	87.5
4-2 地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している	29.0	54.8	83.8	8.8	20.5	54.5	75.0	18.8	43.8	62.6
5-1 地域の人や施設を教育活動に生かしている	32.3	54.8	87.1	9.8	18.2	59.1	77.3	37.5	50.0	87.5
5-2 学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている	12.9	45.2	58.1	3.5	9.1	45.5	54.6	18.8	50.0	68.8
5-3 学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている	15.1	51.6	66.7	9.9	6.8	50.0	56.8	18.8	37.5	56.3

まず、「3 学校からの情報提供」であるが、「3-1 学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる」では、「とても」が48.4%、「3-2 「学び舎」の活動について、情報が提供されている」では22.6%であり、昨年度より向上していることがわかる。しかしながら、「4 学校運営」での「4-1 学校の重点目標が明確である」、「5 地域との連携」での「5-2 学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」「5-3 学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」については、「とても」は10%台であり、ま

だまだ、地域に大事な情報が伝わっているとは言えないのではないか。学校協議会や学校運営委員会はさまざまな活動をしているはずであるが、その地域にあまり知られていないとしたら残念なことである。

他方で、「4-2 地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」は、「とても」は3割であり、「思う」を加えると8割となり、地域住民から一定の評価が得られているようである。また、「5 地域との連携」については、「5-1 地域の人や施設を教育活動に生かしている」は「とても」は32.3%で、「思う」を加えると87.1%と、昨年度より9.8ポイント向上している。

昨年度の関係者評価報告書でも指摘したことであるが、尾山台中学校が「コミュニティ・スクール」として何をめざし、どのような活動をしていくのか、関係者で熟議をしながら、共通理解を深めていくことが重要であろう。

## 2 「学校関係者評価アンケート」への評価委員のコメント

### 【A 委員によるコメント】

#### (1) 「生徒アンケート」結果の考察

今年度の生徒アンケートにおいても、昨年度と同様に、「3. 学校行事」の「①学校行事は楽しい」「②学校行事は達成感がある」や、「7. 全般」の「①学校生活は楽しい」などの項目において、「とても思う」「思う」の合計値が高い結果となった。なかでも、「9. 学校独自」の「②授業では自分で考える場面がある」は、合計値98.0と最も高い数値を示している。本項目は令和6年度から追加されたものであり、昨年度より4.1ポイント上昇している。教師が一方的に話すだけでなく、生徒自身が考える機会を重視した授業が行われていることは、理解の深化につながる良い傾向であると考えられる。また、合計値が95.0以上であった項目として、「2. 学習指導」の「②先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」(95.1)、「3. 生活指導」の「①学校の過ごし方やルールについて考えて行動している」(95.5)、「③指導されたルールについて理解できている」(95.2)、「6. 先生」の「①先生たちは生徒に丁寧に指導している」(95.0)などが挙げられる。

これらを学年別に見ると、概ね学年が上がるにつれて評価が高くなる傾向が見られる。教員による継続的な指導や工夫を通して、「尾山台中生」としての自覚や意識が育まれ、成長につながっているものと考えられる。今後も、生徒一人一人が「尾山台中生」として誇りを持ち、今しかできないことに全力で取り組みながら、教員や友人とともに充実した学校生活を送ってほしいと願っている。

#### (2) 学校のよさと課題

昨年度から追加された質問項目のうち、「5. キャリア教育」の「①学ぶことが楽しい」および「9. 学校独自」の「⑦睡眠時間は十分とれているか」は、昨年度より合計値が上昇している。一方で、「⑧毎朝朝食を食べているか」については、やや減少傾向が見られ、学年別では1年生91.2、2年生79.4、3年生88.4となっている。日々の学校生活を充実した

ものにするためにも、十分な睡眠と規則正しい食生活を心がけ、元気に登校してほしいと考える。

また、昨年度と比較して大きく数値が上昇した項目として、「5. キャリア教育」に関する3項目が挙げられる。「②キャリアパスポートに書いた目標について考えて行動している」は9.7ポイント増、「③進路や将来の仕事について考える授業がある」は6.9ポイント増、「④進路や仕事に関する情報が提供されている」は5.0ポイント増となっている。特に「③」については、令和5年度に84.0と高い数値であったものの、令和6年度には74.6まで低下していた。今年度は81.5となり、回復傾向が見られる。学年別でも、1年生63.8、2年生88.8、3年生93.7と、すべての学年で上昇している。

昨年度、本項目の低下を課題として指摘していた立場からすると、今回の改善は大変心強いものである。1年生の段階から進路や将来について考える機会を設けてきた教員の取り組みが、成果として表れているものと考え。生徒が将来迎える進路に向けて、早い段階から準備できることは大きな意義がある。今後も、調べ、考え、主体的に選択できる機会を継続的に提供していただきたい。

### (3) まとめ

本校では、授業改善、生活指導、キャリア教育など、多方面にわたる取り組みが着実に成果を上げていることが、生徒アンケートから読み取れる。今後も、生徒が安心して学び、成長できる環境づくりを継続しながら、さらなる教育活動の充実に期待したい。尾山台中学校の今後の発展を心より願っている。

---

## 【B 委員によるコメント】

### (1) 「生徒アンケート」結果の考察

一昨年度および昨年度の集計結果と比較すると、今年度のアンケート結果は全体的に向上しており、本校の教育活動や学校運営が着実に改善されていることがうかがえる。

今後、さらに学校をより良くしていくためには、「とても思う」と「思う」を合算した評価だけでなく、「思う」と回答した割合にも注目していくことが重要であると考え。「思う」と評価した場合、一定の満足感がある一方で、何らかの不満や改善点を感じている可能性も含まれていると考えられるためである。

「思う」の割合が1~2割程度の場合は、「とても思う」が約7割を占めている場合が多い。しかし、「思う」の割合が3~4割に達している項目については、何かのきっかけによって「思わない」などの否定的評価に転じる可能性もあると考えられる。

こうした点を踏まえ、今回の結果を今後の改善に生かし、より良い学校生活の実現につなげていく必要がある。

### (2) 学校のよさと課題

#### ◇よさについて

「学校行事は楽しい」「学校生活は楽しい」「部活動は楽しい」の3項目において高い評価が得られており、多くの生徒が尾山台中学校での生活を前向きに捉えていることが読み取れる。実際に、体育祭や合唱コンクールなどの行事に、生徒が意欲的に取り組む姿が見られ

たことは、大変好ましいことである。特に3年生においては、「学校生活は楽しい」に対し、「とても思う」が78.9%、「思う」が21.1%となっており、極めて高い評価を示している。

#### ◇課題について

一方で、「学校生活は達成感がある」は全体として「とても思う」が59.8%、「思う」が28.5%と比較的高い評価であるものの、「学級などの集団生活の中で、自分の役割を果たし、集団に貢献していると思う」については、「とても思う」が41.8%と半数以下にとどまっている。また、「先生たちは生徒が相談しやすい」という項目においても、「思う」が31.7%となっており、相談できる教員の存在をより身近に感じられる環境づくりが求められる。

中学校は、多くの大人と関わり、さまざまな意見や指導を受けながら成長していく場である。「認められる」経験が増えることで、生徒の自己肯定感が高まり、学校への評価も向上し、より充実した学校生活につながると考える。

1年生と比較して3年生の評価が高い点については、これまでの教員との関わりの積み重ねが影響していると考えられる。今後は、1年生の段階から安心して相談できる関係づくりを進めていくことが重要である。

#### (3) 考察を終えて

授業や部活動などで忙しい中学校生活において、生徒が学校で過ごす時間は、家庭で過ごす時間よりも長い場合が多い。そのため、保護者は帰宅時の様子から、学校生活の充実度を感じ取っていることが多いと考えられる。

思春期を迎え、自分のことをあまり話さなくなる生徒も増える中で、教員による日々の丁寧な指導は、生徒が正しい方向へ進んでいく上で大きな支えとなっている。中学生として考える力は徐々に身につけてきているものの、まだ未熟な部分も多い時期である。今後も学校が、生徒にとって「頼れる存在」として感じられる場所であり続けることを期待したい。

---

#### 【C委員によるコメント】

##### (1) 「保護者アンケート」結果の考察

#### ◇子どもの様子に基づく評価の高さ

保護者アンケートにおいて、「学校行事は子どもにとって楽しい」「学校生活は子どもにとって楽しい」など、子どもの日常の様子や感情を通して把握しやすい項目では、80～90%程度の高い評価が得られている。これらの項目は、保護者が子どもの様子を直接観察し、実感しやすい内容であることから、高評価につながりやすい傾向があると考えられる。また、令和5年度・6年度と比較して「とても思う」の割合が増加していることから、本校が子どもたちにとって楽しい環境を継続的に提供していることが評価されているものと考えられる。

さらに、学年別に見ると、「学校生活は楽しい」「達成感がある」といった全般的な項目において、3年生保護者の「とても思う」の割合が高く、尾山台中学校での3年間で充実している様子が保護者に伝わっていることがうかがえる。

#### ◇情報提供・連携に関する評価の課題

「学校運営」や「家庭と学校との連携」に関する項目では、評価が低い傾向が見られる。これらの項目は、保護者が子どもの様子から直接把握することが難しい内容であり、学校側の情報提供や連携が十分に伝わっていない可能性を示している。また、令和5年度・6年度と比較して評価が低下している点についても懸念される。学校の取組や方針が十分に共有されていないことが、課題として挙げられる。

学年別に見ると、「学校からの情報提供」において、3年生保護者の評価が1年生保護者よりも高くなっている。これは、在学期間の長さによる連絡体制への慣れや、進路説明会・配付資料など、情報提供の機会が増えることが影響していると考えられる。

#### ◇学校の安全性・地域連携に関する評価

「学校の安全性」や「地域との連携」に関する項目では、比較的高い評価が得られている。特に、避難訓練やセーフティ教室など、具体的な取組が評価されていることが分かる。

##### (2) 今後の課題と改善への提言

保護者から見た学校評価は、子どもの日常生活や直接的な体験に基づく項目では高く評価されている一方で、学校運営や家庭・地域との連携に関する項目では、改善の余地があると考えられる。特に、

- ・学校行事は子どもたちにとって楽しく、意欲を大切にしていること
- ・学校生活や部活動が楽しく、達成感のあるものであること

について高く評価されている点は、本校の大きな成果である。

これらの成果を学校内にとどめることなく、地域や周辺小学校などにも積極的に発信することで、本校のさらなる発展につながるものと期待される。

一方で、「学校運営」や「家庭と学校との連携」に関する項目については、より具体的に分かりやすい情報発信が求められる。子どもの学校での様子や学校の取組を丁寧に伝えることで、保護者の理解と信頼の向上につながると考えられる。

特に1年生保護者において情報提供に関する評価が低い背景には、中学校生活や情報発信の方法に慣れていないことが影響していると考えられる。そのため、今後は、

- ・授業や学校生活の具体的な様子を分かりやすく伝えること
- ・中学校の仕組みや指導体制について丁寧に説明すること
- ・発信した情報に気づいてもらうための工夫を行うこと

などの取組を充実させていくことが重要である。

また、学校運営や連携活動への理解を深めるためには、情報発信の工夫に加え、学校行事に参加しやすい環境づくりも大切である。これらの取組を通して、保護者が学校の方針や活動をより深く理解し、学校への信頼が一層高まることを期待したい。

---

#### 【D委員によるコメント】

##### (1) 「保護者アンケート」結果の考察

#### ◇生活指導・部活動・安全性に関する評価

生活指導、部活動、学校の安全性、学校独自の質問項目については、全体として高い評価が得られている。特に、安全性については、前年と比較して全体的に数値が上昇している。これは、進路や将来について自ら考える指導や、課題解決を重視した授業の実践、安全に関する指導の充実、部活動の活性化などにより、生徒の意欲を大切にした教育活動が展開されていることが、保護者からの評価向上につながったものと考えられる。

#### ◇学校行事に関する評価

学校行事については、前年度と比較して合計値はやや低下しているものの、「とても思う」の割合は上昇している。このことから、生徒が主体的に考え、意欲的に取り組むことを重視した指導が、保護者から高く評価されているものと推察される。

#### ◇情報提供に関する課題

保護者への情報提供については、前年より評価が低下している。学年が上がるにつれて、子どもから直接話を聞くことが難しくなる傾向があることに加え、紙媒体による連絡では、手元に届かない、あるいは確認が遅れるといった問題も生じやすい。そのため、学校からの情報発信の重要性は一層高まっていると考えられる。

今後は、「中学校すぐーる」や「PTAすぐーる」などのICTツールの活用をさらに進めていくことが望ましい。在校生保護者の立場としても、教職員の負担増加は懸念されるものの、紙媒体から電子配信への移行を希望する声は多く聞かれる。なお、尾山台小学校では「すぐーる」による配信が中心となっている。

#### ◇家庭・学校・地域連携に関する課題

家庭と学校、ならびに地域との連携については、評価が低下している。共働き世帯の増加により、PTA活動や学校・地域行事への参加が難しくなっている現状があり、今後も同様の傾向が続くと考えられるため、改善に向けた取組が必要である。

また、小学生の半数以上が受験を希望する中で、尾山台中学校への進学を魅力的に感じてもらえるよう、地域と連携した情報発信の工夫も重要である。

## 2 今後への期待

より良い学校運営を進めていくためには、地域・家庭・学校の連携が不可欠であると感じている。今後は、尾山台中学校の魅力をより積極的に発信し、広く認知してもらえるような改善が求められる。そうした取組を通して、学校への理解と信頼がさらに深まることを期待したい。

---

### 【E委員のコメント】

#### (1) 「地域住民アンケート」結果の考察

##### ◇学校の取組に対する評価

地域住民アンケートの結果から、本校の教育活動や地域との関わりについて、全体として概ね良好な評価が得られていることがうかがえる。特に、「学校は地域と協力して教育活動を行っている」「地域行事に積極的に参加している」といった項目では、高い評価が示されており、日頃から地域との連携を大切にした取組が進められていることが評価されている。

##### ◇あいさつ・マナーに関する評価

「生徒は地域であいさつをしている」「マナーを守って行動している」といった項目においても、比較的高い評価が得られている。これは、日常的な生活指導や地域清掃活動、防犯パトロールへの協力などの取組が、地域の方々に好意的に受け止められている結果であると考えられる。

#### ◇情報共有に関する課題

一方で、「学校の取組や行事の様子が分かりにくい」「学校からの情報が十分に伝わっていない」と感じている地域住民も一定数存在している。地域とのさらなる信頼関係構築のためには、学校の教育活動や行事の成果を、より積極的に発信していく必要があると考えられる。

#### (2) 今後への期待と提言

地域住民からの評価は、学校と地域との関係性を測る重要な指標である。本校がこれまで築いてきた良好な地域連携を今後も継続・発展させていくためには、以下のような取組が重要である。

- ・学校行事や地域活動への積極的な参加
- ・地域ボランティアとの協働の推進
- ・広報活動の充実

特に、学校ホームページや配布物を活用し、教育活動の様子を分かりやすく伝える工夫を行うことで、地域からの理解と協力をさらに得ることができると考える。

今後も、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていく体制づくりが進められることを期待したい。

---

#### 【F 委員によるコメント】

##### (1) 「地域住民アンケート」結果の考察

#### ◇地域との関係性に関する評価

地域住民アンケートの結果から、尾山台中学校は、地域との良好な関係を築いていることが高く評価されている。特に、「地域活動への参加」「地域行事への協力」「地域ボランティアとの連携」などの項目において、高い評価が得られており、日頃から地域とのつながりを大切にした学校運営が行われていることがうかがえる。

#### ◇生徒の様子に関する評価

生徒の地域での様子については、「あいさつができています」「礼儀正しく行動している」「マナーを守っている」といった項目で、概ね良好な評価が示されている。

これは、学校における生活指導の成果が、地域生活の場面においても表れている結果であると考えられる。

#### ◇情報発信に関する課題

一方で、「学校の取組が分かりにくい」「活動の様子が十分に伝わっていない」と感じている地域住民も一定数存在している。

学校の教育活動をより広く理解してもらうためには、ホームページや広報紙などを活用した情報発信の工夫が、今後さらに求められる。

## (2) 今後への期待と提言

地域と学校との連携は、子どもたちの健全な成長を支える重要な基盤である。

本校がこれまで培ってきた地域との信頼関係を、今後も大切にしながら、より開かれた学校づくりを進めていくことが期待される。

そのためには、

- ・地域行事への継続的な参加
- ・地域人材の積極的な活用
- ・情報発信体制の強化

などの取組を推進していくことが重要である。

今後も、地域とともに歩む学校として、尾山台中学校が一層発展していくことを心より願っている。